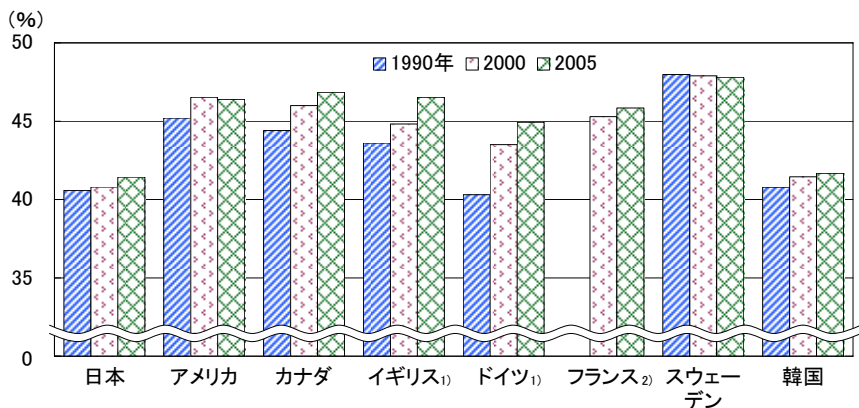


## 3-3 就業者に占める女性の割合



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第3-4表 性別・職業別就業者数」(p.107)を参照。

(注) 1) イギリスとドイツの1990年は1991年の値。

2) フランスの2000年は2003年の値。

比較可能な各国において就業者に占める女性の割合は、全体としてみれば1990年から2005年にかけて上昇傾向にある。ただし、スウェーデンは1990年時点で既に女性就業者の割合が高水準で、以降横ばいの推移となっており、またアメリカは1990年から2000年にかけて増加した後、2005年はほぼ同水準での推移となっている。

上のグラフをみると、日本は主な先進国のなかで女性の割合が最も低いのがわかる。「2-5 女性年齢階級別労働力率 (p.57)」のように、日本においては、出産・育児等のために特定の階層で女性の労働力率が低下するというM字カーブが現在でもみられることが、ひとつの要因として挙げられる。

(参考) 就業者に占める女性の割合

	1990	2000	2005	(年)
日本	40.6	40.8	41.4	(%)
アメリカ	45.2	46.5	46.4	
カナダ	44.4	46.0	46.8	
イギリス	43.6	44.8	46.5	
ドイツ	40.3	43.5	44.9	
フランス	—	45.3	45.8	
スウェーデン	48.0	47.9	47.8	
韓国	40.8	41.4	41.7	